

三田市総合計画と次期「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

(三田版総合戦略) との関係について

1 現状

国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が令和元年12月20日に閣議決定され、令和2年度からの5か年の戦略を示しています。また、国は、地方公共団体においても、国・県の総合戦略を勘案しながら、次期「地方版総合戦略」を策定し、切れ目無い取り組みを求めています。

本市では、平成28年3月に、「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（三田版総合戦略）」を策定し、取り組みを推進していますが、平成29年3月には、第4次三田市総合計画後期計画を策定し、その際に「三田版総合戦略」は「第4次三田市総合計画後期計画」に包含し、対象期間である令和3年度までは取り組みを一体的に推進することとしています。

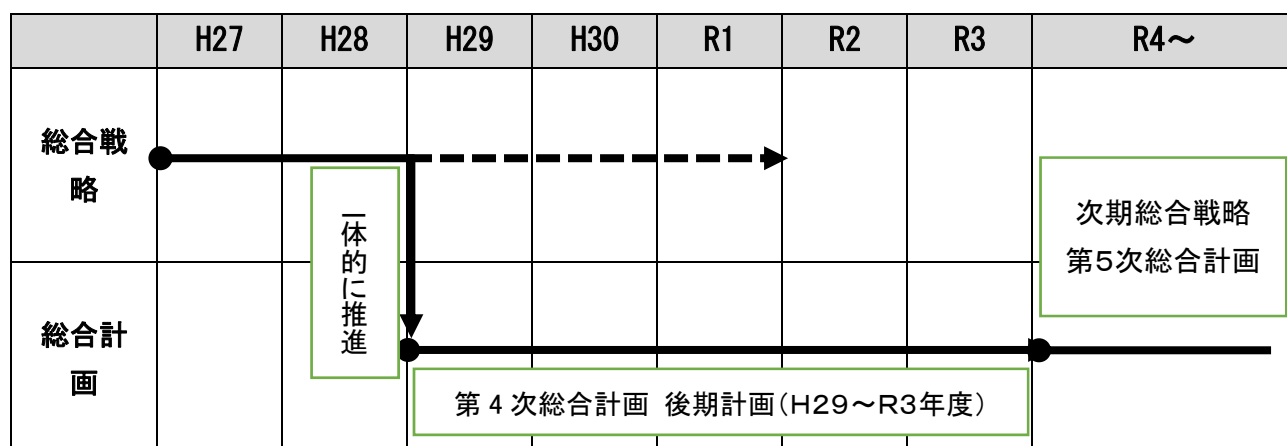
参考資料として、平成28年3月策定の「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（三田版総合戦略）」を添付しています。

2 次期三田版総合戦略の策定について

総合戦略に掲げる取り組みは、まちづくりの最上位計画である総合計画と一体的に進めることが適当であることから、次期三田版総合戦略についても、国・県の第2期総合戦略を勘案しながら、第5次総合計画と一体的に策定します。

なお、国は切れ目無く総合戦略を推進するよう求めていることから、次期「三田版総合戦略」を策定するまでの間は、現行の「三田版総合戦略」に基づき推進しています。

3 総合計画と総合戦略の関係イメージ



三田市まち・ひと・しごと 創 生 総 合 戦 略

～魅力を高め、強みを活かすチーム三田～

平成28年3月
三 田 市

《《三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略》》

三田市の人口ビジョン(要約)	P1
1 施策の背景と目的	P2
2 三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け	P2
3 総合戦略の推進について	P3
4 目指す戦略イメージ	P4
5 基本目標と方向性	P5
6 シティセールスについて	P7
基本目標 1 子どもに夢を—三田らしさを守り伝え、未来を担う人を育てる—	P8
1-1 三田子育て応援施策をバージョンアップする ～切れ目のない子育て支援(三田版ネウボラ)～	
1-2 地域と学校の教育力を高める	
1-3 自然とともに育てる	
基本目標 2 高齢者に安心を—安全・安心で、いきいきと暮らすまちをつくる—	P11
2-1 高齢者の生活を支える	
2-2 移動しやすい域内交通網をつくる	
2-3 安全・安心なまちをつくる	
基本目標 3 地域に元気を—一人と人がつながり、活力と賑わいをつくる—	P14
3-1 若者が集うまちをつくる	
3-2 地域経済を活性化させる	
3-3 交流と連携で文化・スポーツを振興する	
創生の方向性	P17
1 多様な主体、世代をつなぐ	
2 コミュニティ力を高める	
3 魅力を発信し、U I J ターンを促進する	
4 街並みを守り、都市基盤を整備する	
三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定過程	P22

三田市の人口ビジョン(要約)

人口の現状

1 人口の推移

(1) 人口の長期的な推移

- ・本市では、昭和 62 年から平成 8 年にかけて人口が急増。平成 12 年に 11 万人に達した後、増加ペースは緩やかになり、平成 22 年以降は横ばいとなっています。

(2) 自然動態(出生・死亡)の推移

- ・近年、出生数は横ばい状態ですが、死亡数は徐々に増加する兆しがあります。出生数を死亡数が上回る「自然減」の状態が目前に迫っています。
- ・合計特殊出生率(1.22)は、全国平均(1.43)と兵庫県平均(1.42)を下回っています。

(3) 社会動態(転入・転出)の推移

- ・近年は、転入者数・転出者数ともに減少する傾向にあるものの、平成 24 年以降は、転出者数が転入者数を上回る「社会減」の状況にあります。
- ・転入・転出先としては、県内で最も多いのは神戸市で、県外では大阪府(特に大阪市)が最も多くなっています。

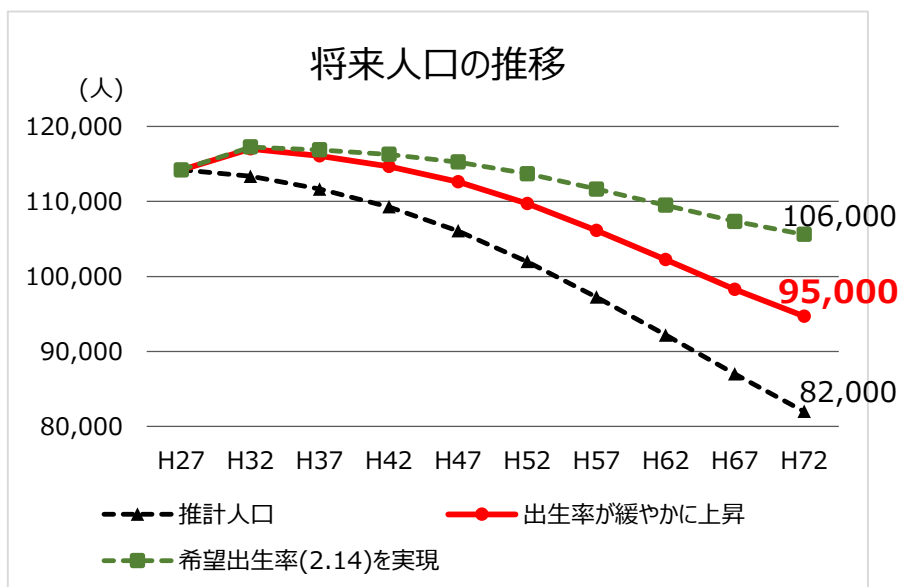
2 将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所に準拠)

- (1) 平成 72 年の人口は、約 82,000 人まで減少する見通しです。
- (2) 0 歳から 14 歳の年少人口の割合は、現在の約 13%から約 7%まで下落する見通しです。

人口の将来展望

市の取り組みの方向性

- ・本市において中長期的に人口減少は避けられない状況にあります。
- ・そこで、総合戦略を策定し、人口減少の緩和と地域を維持・発展させるための施策を展開します。



平成 72 年の目標人口
約 95,000 人

1 施策の背景と目的

わが国は、平成 23 年（2011 年）から「人口が継続して減少する社会」（総務省統計局）に突入し、今後、少子化・高齢化を伴いながら加速度的に進行し、国立社会保障・人口問題研究所によると、平成 72 年（2060 年）の総人口は約 8,200 万人まで減少することが予測されています。また、東京圏の一極集中が続く一方で、東京圏と地方の人口格差は一層広がっていくと言われています。

こうした日本が直面する大きな課題に対し、平成 26 年（2014 年）11 月「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、各地域がそれぞれの実情に応じ、将来にわたって活力ある社会を維持するための取り組みを国と地方が一体となって進めることが明記されました。同年 12 月には国の「長期ビジョン」及び「総合戦略」が閣議決定され、各地方公共団体においても「地方人口ビジョン」及び「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとされています。

これを踏まえ、本市においても、「三田市人口ビジョン」※をとりまとめ、人口予測を行うとともに、人口減少に対応する 5 カ年の施策をまとめた「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、『チーム三田』を合言葉に、市民の皆さんをはじめ産官学金労言など多分野の方々とスクラムを組んで、「日本一住みたいまち 三田」をめざして、地方創生に取り組みます。

※「三田市人口ビジョン（人口の動向と今後の見通し）」平成 28 年 3 月 三田市

2 三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け

(1) 三田市総合計画との関係

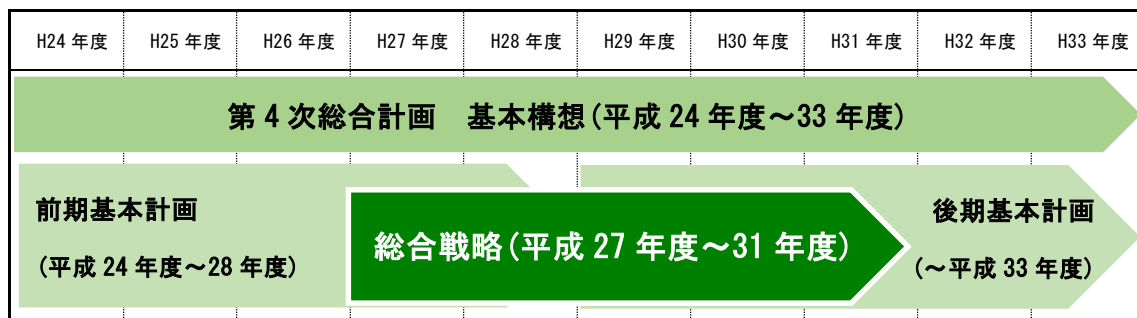
本市では平成 24 年度より、住みたい住み続けたいまちを目指して、「ひと・まち・自然が輝く三田」をまちの将来像とした 10 カ年計画「第 4 次三田市総合計画」に基づき、まちづくりを進めています。

総合計画では、目指すべき将来像を明らかにする（基本構想）とともに、将来像実現のためのあらゆる施策の取り組み（基本計画）を定めています。

三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、将来の人口ビジョンを踏まえ、人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立のための諸施策を、この第 4 次三田市総合計画と整合を図り、一体的に進めていきます。

(2) 計画期間

三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の対象期間は、平成 27 年度～31 年度の 5 年間の計画です。

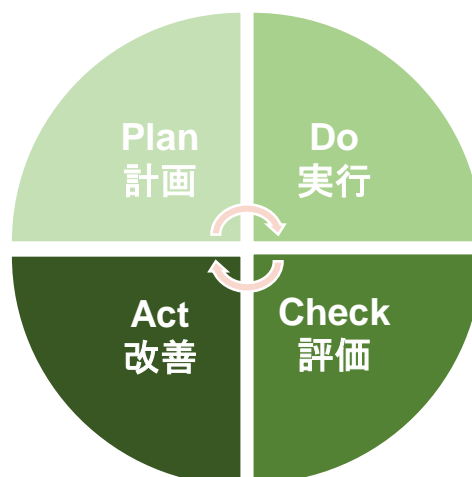


3 総合戦略の推進について

三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、各施策の成果を客観的に検証できるようにするため、施策ごとに客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

なお、戦略の実行にあたっては、「チーム三田」の核となる市職員が「進取の精神」と「未来に対する責任感」を持って、柔軟な発想と市民目線で取り組みます。

併せて、三田市議会と連携を図りながら、事業の評価を行う仕組み（PDCA サイクル）として、施策の推進、実施の総合的な検証と見直しを行い、その結果について市民の皆さんに公表しながら進めていきます。



4 目指す戦略イメージ

本市の都市的機能と農山村が隣接する地域特性、交通の利便性、コミュニティを担う豊富な人材、食の宝庫など、様々な魅力と子育て施策、優れた教育環境といった強みをより高め、関西圏・首都圏に発信し、“三田市だから住んでみたい、住み続けたい”人の流れを生み出します。

本市の目指す『日本一住みたいまち』づくりは、市内の子どもから高齢者までの多世代のスクラムと、市議会、市行政、産業界、関西学院を始めとする学術研究機関、金融界、労働界、マスコミなど、多分野のスクラムによる「チーム三田」で取り組みます。

《戦略イメージ》

魅力を高め、強みを活かすチーム三田

5 基本目標と方向性

○基本目標

1 子どもに夢を ―三田らしさを守り伝え、未来を担う人を育てる―

本市は、0歳から14歳までの人口が総人口の1割以上を占める県内でも若者比率の高い都市です。これは、合計特殊出生率が1.22（H25）で県内でも低い状況にかかわらず、総人口に占める0～4歳人口比率では県内20位以内に位置しており、子育て世帯の転入が多いことが背景にあります。

この強みをさらに高めるとともに、本市の歴史、自然の中で、地域コミュニティとともに子どもの成長を見守ります。

【方向性】

- ① 三田子育て応援施策をバージョンアップする～切れ目のない子育て支援（三田版ネウボラ）～
- ② 地域と学校の教育力を高める
- ③ 自然とともに育てる

2 高齢者に安心を ―安全・安心で、いきいきと暮らすまちをつくる―

本市は、昭和62年から平成8年にかけて全国でも稀にみる人口急増期を迎え、平成12年に人口11万に達しました。この時期の転入世代がシニア世代に移行し、今後、急速な高齢化が生じることから、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

【方向性】

- ① 高齢者の生活を支える
- ② 移動しやすい域内交通網をつくる
- ③ 安全・安心なまちをつくる

3 地域に元気を ―人と人がつながり、活力と賑わいをつくる―

本市には、若者の集う場が限られているため、アンケートでも「若い人が少ない印象」といった意見があります。また、転出理由として「就職のため」が最も多いことやまちの賑わいづくりのために、企業誘致、就業・創業支援、農業の担い手づくりなど産業の活性化に取り組むとともに、転入者が行政施策として「健康づくり支援施策」を最も重視することから自然あふれる三田に適したスポーツの振興を図ります。

【方向性】

- ① 若者が集うまちをつくる
- ② 地域経済を活性化させる
- ③ 交流と連携で文化・スポーツを振興する

○創生の方向性

3つの基本目標全てに共通し、より効果を高めるための方策を「創生の方向性」として掲げます。

① 多様な主体、世代をつなぐ

若者世代とシニア世代、都市部と農村部など多様な主体と世代のマッチングにより多世代が活躍するまちをつくれます。

② コミュニティ力を高める

市民によるまちづくりによって培われたコミュニティ力をより高め、転入世帯にも不安なく暮らせるまちづくりを進めます。

③ 魅力を発信し、U I Jターンを促進する

シティセールスによる魅力発信と、良質な空き家等を活用した転入希望者への移住情報や魅力体験等を提供するなど、U I Jターンを進めます。

④ 街並みを守り、都市基盤を整備する

城下町の風情を残す街並みを守るとともに、三田駅前など新しいまちの顔づくりと広域交通の結節点を活かしたまちづくりを進めます。

6 シティセールスについて

本市の魅力を6つに集約し、「チーム三田」として関係機関と協働して本市のイメージを内外に発信し、知名度の向上と交流・定住を促進します。

魅力その1 進取の精神が息づくまち 三田

幕末～明治期に近代化学を拓いた川本幸民を始めとして多くの偉人を輩出。その精神は、サイエンスを通じて今も現代に息づいています。

魅力その2 夢を育てる学びの都^{まち} 三田

地域で開催される塾から多くの高等学校や大学、専門機関（人と自然の博物館等）とも連携した学びの場があります。

魅力その3 関西三都の結節点 三田

阪神・丹波・播磨のクロスロードに位置し、道路や鉄道の広域交通ネットワークが整備され、大阪、神戸、京都の中心に約1時間でアクセスできる利便性を兼ね備えています。

魅力その4 美味しい食の宝庫 三田

豊饒な大地と寒暖差のある気候に育まれた農産物、三田肉等の豊富な食材とそれを活かした料理やスイーツが楽しめます。

魅力その5 自然あふれる憩いの郷 三田

県内最大の都市公園・有馬富士公園を始めニュータウンに点在する公園、日本の原風景が残る里山が訪れる人の心に潤いを与えます。

魅力その6 子育てするならゼッタイ三田

妊娠時から就学期まで切れ目なく子育てをサポート。安心して子育てができる環境と新婚世帯の支援もあります。

基本目標1 子どもに夢を ―三田らしさを守り伝え、未来を担う人を育てる―

本市では「子育て先進都市」を目指し、医療や教育から子育て支援まで安心して子どもを生み育てるための支援施策を充実させてきました。その結果、子育て世帯の転入を呼び込むことに成功し、就学前児童数については、社会増が少ない出生数を補い、増加が続いています。（出生率：県49市区町中40位以下、総人口に占める0歳～4歳人口比率：20位以内）こうした強みをさらに活かす取り組みが必要です。

一方、少子化や核家族化、地域コミュニティの希薄化等に伴い、子育てに不安や負担を感じている家庭の割合は依然として高い状況であり、より踏み込んだ支援が求められています。

本市が展開してきた『子育てするならゼッタイ三田』をさらに発展させ、ワンストップで切れ目のない子育て支援を導入し、「選ばれるまち」「住んでからも安心して生み育てられるまち」としての安心感を「実感」していただく、多様な子育て支援施策の展開を図ります。

また、子育て世代から選ばれるまちとなるため、幼児教育・学校教育の質、教育水準を高めます。さらに、地域人材を活用し、地域の教育力を高め、子どもの学びを支援する仕組みを整えます。

数値目標	基準値	目標値(H31)
合計特殊出生率※	1.22(H25)	1.25

※資料：市健康福祉部福祉総務課集計

1-1 三田子育て応援施策をバージョンアップする

～切れ目のない子育て支援（三田版ネウボラ）～

地域の母と子総合支援として、フィンランドにおいて成果を上げている「ネウボラ※」の取り組みをモデルに、妊娠・出産期から子育て期に至る各ライフステージに応じた切れ目のない子育て支援を行い、三田で生み育てることへの安心感を提供します。

例として、妊娠・出産期への支援を充実して母子保健事業の精度向上に取り組むとともに、多様な保育サービスの提供を推進・支援し、近年増加傾向にある待機児童を早期に解消することで、安心して生み育てられる子育て環境を整備します。

また、居住地域や公私施設の別なく、質の高い幼児教育・保育が受けられる環境を実現し、子育てに関わる各種負担の軽減を図ります。

※ネウボラ…フィンランドで制度化されている子育て支援施設のこと。保健師など母子支援の専門職が配置され、健診、保健指導、予防接種等のほか、子育てに関する相談や必要に応じて他の支援機関と連携を行う。妊娠・出産から就学期までの育児を長期かつ総合的に支援するのが特長。

(1) 妊娠から就学前までの切れ目のない支援

- ・総合福祉保健センター内に保健師等を専任で配置し、妊娠期から就学前までの母子の健康や子育てについて切れ目のない子育て支援サービスを提供します。
- ・新生児の全てを訪問するとともに、妊娠期の段階からリスク管理、早期対応を行う体制を充実します。
- ・周産期医療、小児医療ネットワークの充実を図り、三田で生むことへの安心感をより高めます。
- ・子育て中の母親など、基本健康診査の会場へ行くことができない人に対しても気軽に健康チェックできる方法を検討し、若年層市民の健康保持増進を図ります。

(2) 保育サービスと子育て支援の充実

- ・認定こども園への移行や、認可保育所・小規模保育施設の設置・拡充を支援し、保育サービス基盤を確保します。
- ・多様な事業者の参入促進や保育人材の確保を行います。
- ・放課後児童クラブの施設整備等により、児童の健全育成と保護者の就労等を支援する基盤を確保します。
- ・地域性や各施設の特性を考慮しながら、子育てに関わる負担の軽減や標準化を図ります。
- ・市内事業者にワークライフバランス（仕事と家庭の調和）推進のための研修の機会を提供し、子育てや介護がしやすい環境づくりを図ります。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
乳児全戸訪問率※	80.2%（H26）	97.0%

※資料：市健康福祉部健康増進課集計

1-2 地域と学校の教育力を高める

子育て世代から選ばれるまちの要素として、教育水準や公立学校の質の高さなど、教育関連分野が上位を占めています。本市はその潜在的な素地があり、これらの強みをさらに発展させるため、教育ニーズに的確に対応・充実を図る施策を展開します。

また、ふるさと三田の文化・歴史や豊かな自然などの豊富な学習資源と人材を活かし、地域全体で子どもたちの学びの充実を図ります。

(1) 地域の教育力を高める

- ・様々な専門知識や能力を持った潜在的な人材を掘り起こして活用することにより、地域

の教育力を高め、チャレンジする精神を持ち、世界を視野にグローバルな気概を持った人材を育てます。

(2) 学校教育の充実

- ・児童生徒の「生きる力」を育み、三田の豊かな自然や歴史、偉人を学び、郷土に愛着と理解を深める学校教育を進めます。また、児童生徒の心のケアや家庭での問題に対する支援を充実します。
- ・子どもの望ましい食習慣を形成し、心身の成長や健康の保持増進を図るとともに、ふるさと三田の恵みや生産・流通に携わる人への感謝、食文化などを含めた食の大切さを学ばせ、健全な食生活を実践することができるよう、食育を推進します。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
こうみん未来塾の参加者数※	—	4,800人

※資料：市企画財政部地域戦略室集計

1-3 自然とともに育てる

本市では、豊かな自然に育まれた多様な生態系を有するなど、人と自然が共生するまちになっています。この恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐために、市民・事業者・専門機関との連携により、魅力ある自然環境の保全と利活用を推進します。

また、地球温暖化防止に向け、環境負荷の少ないエネルギーへの取り組みを促進します。

(1) 教育機関等との連携

- ・人と自然の博物館などの教育機関と連携し、より専門的な学習プログラムの開発によって自然を活かした生涯学習の取り組みを進めます。

(2) 自然環境の保全と利活用

- ・魅力ある自然環境の保全をするため、人と自然の博物館と連携しながら、生物多様性等の豊かな自然環境を適切に維持し、環境保全活動や環境学習への取り組みを進めます。
- ・地球温暖化防止に向け、環境への負荷の少ないエネルギーの効率的な使用を推進し、循環型社会の形成及び多様なエネルギーによるまちづくりを目指します。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
学習プログラム参加者数※（スクールサポート含む）	3,000人（H26）	3,200人

※資料：市まちづくり部生涯学習支援課集計

基本目標 2 高齢者に安心を ―安全・安心で、いきいきと暮らすまちをつくる―

本市は兵庫県内で一番若いまちですが、今後急速に高齢化が進みます。そのなかで、歳を重ねても住み慣れた地域で、いつまでもいきいきと自立して安全・安心に暮らせるよう、区・自治会や民生委員児童委員、福祉医療機関等と連携して高齢者とその家族を支える仕組みづくりを進めるほか、外出しやすい交通手段の充実や支援も図ります。

また、自然災害の発生に備えて、避難行動要支援者に対する地域の協力体制の充実と、災害情報の収集・発信方法の強化を図るとともに、警察や関係団体との連携による犯罪のないまちづくりを進めていきます。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
市民の満足度平均点(高齢者の安心)※	3.06/5 点 (H26)	4.0/5 点

※資料：「平成 26 年度三田市市民意識調査～報告書～」平成 27 年 2 月 三田市

2-1 高齢者の生活を支える

今後、直面する超高齢社会に対応するため、医療・介護をはじめ予防、住まい、生活支援・福祉サービスが一体的に提供される体制を構築する必要があります。

介護や医療が必要になっても高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らすことができるよう、またその健康寿命が伸びるよう、地域ぐるみの支援体制（三田安心ケアシステム）を確立します。

○ 三田安心ケアシステム確立に向けた主要な取組み

- ・在宅医療と介護連携を推進し、在宅支援を強化します。
- ・認知症高齢者の見守りや早期発見、早期対応など認知症施策を推進します。
- ・認知症高齢者への理解促進といきいきと過ごせるまちづくりを目指します。
- ・介護予防日常生活支援総合事業の導入など生活支援サービスを充実します。
- ・介護予防体操の普及・啓発など、介護予防を推進します。
- ・介護サービス基盤の整備、充実を推進します。
- ・介護者に対する支援の充実を図ります。

重要業績評価指標 (K P I)	基準値	目標値 (H31)
要介護・要支援認定者割合※	17.4% (H26)	17.3%

※資料：「介護保険事業状況報告」 基準値は平成 26 年 10 月時点

2-2 移動しやすい域内交通網をつくる

高齢化が進む中で住み慣れた地域でいつまでも生活を送るために、通院や買い物など生活する上で必要な外出だけでなく、友人との交流や趣味の会合等の文化的な外出についても当たり前に行えるような交通手段の充実や支援を図るとともに、公共交通機関等との連携による交通ネットワークを構築し、移動しやすく安全で便利なまちをつくります。

- ・高齢者の運賃助成制度を拡大し、外出機会の拡充を図ります。
- ・高齢者の外出支援ボランティアが、自家用車を利用することなく安心して活動ができるよう、取組み地域の市民センターなどに共同利用できる自動車を配置し、ボランティアが活動しやすい環境を整えます。
- ・新たな市民生活交通手段を構築します。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
高齢者運賃助成制度利用率※	45.1%（H26）	55.0%

※高齢者運賃助成制度利用率＝制度利用者／対象高齢者総数

資料：市まちづくり部市民協働局コミュニティ課集計

2-3 安全・安心なまちをつくる

近年、全国各地において集中豪雨や地震などの自然災害が多く発生しており、本市でもいつ災害が発生してもおかしくないことから、地域における避難行動要支援者への支援体制を推進し、あわせて自助の取り組み等の意識啓発を図ります。そして、災害情報の収集と発信方法を充実させます。

また、防犯協会や警察との連携を図りながら、犯罪のないまちづくりを進めます。

(1) 災害への備え

- ・避難行動要支援者への支援を含めた、共助及び自助の取り組みを推進します。
- ・本市の災害リスクにあった災害情報システムを構築し、防災行政無線、さんだ防災・防犯メール等の様々な手段で適切なタイミング・範囲に避難勧告等を発令できる態勢を整えるほか、リアルタイムな防災・気象情報を入手できるよう環境整備を進めます。

(2) 犯罪のないまちづくり

- ・防犯協会や区・自治会等による防犯の取り組みを支援するなど、犯罪のないまちづくりを進めます。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
防災訓練の実施率（区・自治会）※	58.7%（H26）	86.2%

※資料：市消防本部予防課・総務部防災安全課集計

基本目標 3 地域に元気を 一人と人がつながり、活力と賑わいをつくる

市民一人ひとりが主体的にまちづくりに関わる仕掛けづくりや多世代交流による賑わいの創出を通じて、「魅力溢れる成熟都市」として本市の未来を拓くための仕組みを構築します。また、地域コミュニティの醸成を促し、定住促進のための就業機会や生活基盤を充実させることで、「日本一住みたいまち」を目指します。

本市は都市と農村が共存した良好な住環境と多様で美しい景観を形成しています。このような三田の魅力を維持・発展させ、積極的に活かす施策を推進します。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
観光客入込客数※	344 万人 (H26)	400 万人

※資料：市経済環境部商工観光振興課集計

3-1 若者が集うまちをつくる

まちの賑わいを創出する方法の一つとして、若い人びとの感性やエネルギーをまちづくりに活かす仕組みが重要です。本市は、大学や短大、県立の博物館等の多様な学校・教育資源に恵まれています。こうした学生をはじめとする若い人びとのまちづくりへの関心を育て、まちの活性化につなげます。

また、若年層アンケートでも、未婚の理由として「出会う機会やきっかけがない」ことが1位に上がっていることから、結婚や定住のきっかけとなる出会いの場を提供します。

(1) 若者によるまちづくり

- ・市内の様々な教育機関で学ぶ学生同士や市民が交流し、学生等の意見や提案がまちづくりへの参加につながっていくよう、まちづくり学生会議や活動拠点、事業提案の仕組みを設けます。
- ・選挙権年齢が18歳以上になり、若者の政治参加を促すとともに、学生や若者を育む気運の醸成を図るため、「学生のまち推進条例」を検討し、「学生のまち」としての環境を整えます。

(2) 出会いの場づくり・結婚促進

- ・様々な出会いの機会の増加につながるような民間の取り組み、若者による企画等に対して支援を図ります。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
三田市に「住み続けたい」と感じる若者の割合 （20～24 歳）※	46.2%（H27）	60.0%

※資料：「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関するアンケート調査 報告書」

基準値は平成 27 年 10 月時点

3-2 地域経済を活性化させる

北摂三田第二テクノパーク等への企業誘致により、高度な生産機能・流通機能等を促進するとともに、誘致と連動して雇用創出を実現します。また、大規模店舗の出店等による商環境の変化により既存の商店街が衰退していることから、その活性化を図ります。

農業従事者の高齢化の進展により、担い手の育成と確保が喫緊の課題となっていることから、農地活用や農村活性化を促進していくための環境整備を図ります。

都市圏に近接しながらも豊かな自然環境を有する本市の立地条件を活かした都市近郊農業を推進するとともに、農商工の連携等により、三田の「食と農」の魅力を市内外に広く発信し、消費拡大につなげていきます。また、持続可能で活力ある三田の農業を発展させていくため、多様な担い手を育成・確保していくための環境整備に取り組みます。

（1）商工業の振興

- ・工場適地としての魅力や優遇制度をシティセールスと連携し、誘致活動を積極的に取り組んでいくことで、北摂三田第二テクノパーク等への企業立地を促進します。更に企業誘致促進のため諸制度を推進・検討し、市内雇用の創出・拡大と地域経済の活性化を図ります。
- ・商工会や商店街等と連携し、空き店舗対策など商店街が抱える様々な課題の解決に向けた支援を行い、魅力ある商店街づくり及び市街地の活性化を図ります。

（2）就業・創業支援

- ・ハローワーク三田等の就業支援機関と連携し、合同就職面接会の開催や雇用に関する情報の提供等、就業につながる場の提供を推進します。
- ・関西学院大学と連携し、革新的技術を活用したベンチャー育成などの創業支援に取り組みます。

（3）農業の振興

- ・将来にわたって地域農業を担う意欲ある担い手の育成・確保に向け、農業に携わりながら生活する暮らしのスタートをサポートする仕組みを構築します。

- ・新鮮な食材を味わうことのできる施設を三田の新たな魅力発信拠点として整備することで、農産物の消費拡大を推進します。
- ・ＴＰＰ（環太平洋パートナーシップ協定）を見据え、新たな三田産ブランドの創出を推進するとともに、安全・安心で競争力のある三田の農畜産物を市内外にアピールできる体制づくりを支援します。

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値（H31）
地場産レストラン年間来客数※	—	4 万人

※資料：市経済環境部農業振興課集計

3-3 交流と連携で文化・スポーツを振興する

教育機関等との連携のもと、三田の豊かな自然を活かした体験学習等の取り組みにより生涯学習の充実を図ります。また、生涯を通してスポーツに親しむことで健康的な生活を送るとともに、自然とのふれあいや多世代交流を促進する三田らしいスポーツ活動を支援します。

- ・ウォーキングコースを活用した市民の健康づくりを図るとともに、三田の特徴を活かしたスポーツイベントとしてノルディックウォーキングイベントを開催することで、本市の魅力発信につなげます。

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値（H31）
ノルディックウォーキングイベントの参加者数※	—	1,000 人

※資料：市まちづくり部生涯学習支援課集計

創生の方向性

「子どもに夢を」「高齢者に安心を」「地域に元気を」の3つの基本目標を支える事業全般に渡り、直接的・間接的に関連する取り組みを充実させることにより、総合戦略全体に厚みを持たせ、より効果的な展開を図ります。

1 多様な主体、世代をつなぐ

多世代が交流する機会を設けることで、高齢世代をはじめとするすべての人が生きがいを感じられるまちづくりを進めます。

また、地域の意欲のある人材が持っている専門的な知識や豊富な経験、アイデア等を活かした先進的な事業の立ち上げなど、幅広い起業支援を進めることで地域経済の活性化にもつながります。

(1) 多世代活躍の場づくり支援

- ・多世代共生のまちづくりを進め、高齢者と子どもたちがふれあう機会の創出を図ります。
- ・高齢世代を含めた多世代の交流を進め、地域活動や社会貢献活動などの活躍の場づくりに取り組みます。
- ・高齢者の生涯学習の場に若い世代が参画することで交流を図り、生きがいつくりの向上を目指します。
- ・産官学金労言と市民との連携により、活力ある地域づくりを進めます。

(2) 創業支援

- ・商工会や市内金融機関等と連携し、創業希望者に対するワンストップ窓口の設置、経営や財務に関するセミナーの開催などやベンチャー企業の設立も含めた幅広い創業支援を促進します。
- ・関西学院大学をはじめ、市内高等学校、大学と連携し、地域人材の活用を図りながら、コミュニティビジネスやベンチャービジネスにより地域活性化に取り組みます。

重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（H31）
生涯現役サポートセンター（仮）年間利用者数※	—	3,600人

※資料：市まちづくり部市民協働局コミュニティ課調査

2 コミュニティ力を高める

他者に対する寛容性を高め、協働のまちづくりを推進するために、市民が主体的に行うまちづくり活動や学習活動などの共助の取り組みを支援し、住民自治力を高めます。

そのため、地域の中心的な団体であり、コミュニティの核である区・自治会の活性化に向けた啓発を支援します。

また、地域社会に住むマイノリティ※とされる全ての方が、自分らしく生活できるように地域社会から排除されないダイバーシティ社会※の実現に向けて、誰もが心地よいまちづくりの推進を図ります。

※マイノリティ…少数者。マジョリティ(多数者)の対語。

※ダイバーシティ社会…さまざまな違いを受け入れ、互いに対等な関係を築こうとしながら全体として調和がある社会。多様性に配慮した社会。

(1) 市民活動等の活性化支援

- ・市民活動団体等の特性を活かし、市との協働により課題解決を目指す仕組みを創設します。また、クリエイティブな活動に対しての支援も図っていきます。
- ・地域の裁量で活用することができる一括交付金制度を創設し、地域の様々な団体等が連携・協力しながら、主体的に課題を解決する取り組みを支援します。

(2) ダイバーシティ社会の実現

- ・日本語に不慣れであっても安心して行政サービスや医療が受けられる環境づくりを行うとともに多言語による情報発信を行います。
- ・障がいのある人がコミュニケーションを取りやすい環境の充実に図ります。
- ・性的少数者※が周囲の理解の中、自分らしく生活できるように正しい知識の普及啓発に努めます。

※性的少数者(性的マイノリティ)…恋愛・性愛の対象が同性や男女両方に向かう人や性同一性障がいのある人。

重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(H31)
協働事業採択実施件数※	—	4件／年

※資料：市まちづくり部市民協働局コミュニティ課調査

3 魅力を発信し、U I Jターンを促進する

本市では、「来て 見て 住んだ」を合言葉として平成 27 年度からシティセールス（C S）活動として、ロゴマーク「はじまりが Cross する さんだ」、「なんだ、さんだ」を使い、本市の知名度を向上させ、定住・交流する取り組みを進めています。

「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を進めるにあたっては、このC S活動をより発展させ、三田の魅力を6つ（「進取の精神が息づくまち三田」、「夢を育てる学びの都三田」、「関西三都の結節点三田」、「美味しい食の宝庫三田」、「自然あふれる憩いの郷三田」、「子育てするならゼッタイ三田」）に集約し、移住促進、観光振興、企業誘致、地場産レストラン整備などに活かしていきます。

「チーム三田」として、個々の魅力を持つプレイヤーがスクラムを組み、対外的に三田市の魅力を発信していきます。

また、市外からの移住やU I Jターンを考える人に向けての情報提供や魅力体験により、転入のきっかけとなるような機会を充実するとともに、転入者のための支援や豊かなライフスタイルの提案によって定住促進を図り、「ふるさと三田」の意識を育むことで次世代まで住み続けるまちづくりを進めます。

(1) シティセールスの推進

- ・ 6つの魅力を発信するため、市内の産官学金労言による「チーム三田推進機構(仮)」を設置し、三田市のシティセールスに取り組みます。
- ・ 横断的なシティプロモーション活動を目的に策定した「三田市シティセールスアクションプラン（H26）」に基づき、多様な団体の情報をチーム三田として一元化し、魅力やイベント等タイムリーに発信するポータルサイトの設置や本市の都市・自然の資源を活用した事業等を展開し、交流人口の拡大、定住人口の増加につなげます。
- ・ 川本幸民が残した日本人初のビール醸造や写真機製作などの業績を活用した事業を実施し、本市の知名度向上や交流人口の増加を図ります。

(2) U I Jターンの推進

- ・ シティセールスコンシェルジュによる転入相談とともに、U I Jターンに関する移住者による体験談等の豊富な情報を掲載した情報誌やホームページ、SNS等による情報発信、見学バスツアー、ホストによる短期のホームステイ等に取り組みます。
- ・ 本市の既存住宅ストックを有効活用するための住み替えや、新婚世帯、子育て世帯、三世帯世帯などの定住を促すための支援を行います。

(3) 観光の振興

- ・郷土の歴史を活かしたまちなか観光、地域の生活や文化を対象とした体験型観光などの取り組みを進めるとともに、首都圏でのアンテナショップの出店なども視野に本市の魅力の発信に努め、市外の人を訪れたくなるような観光の振興を図ります。

重要業績評価指標（K P I）	基準値	目標値（H31）
広域メディア掲載件数※ ¹	39 件（H26）	100 件
新婚・子育て世帯定住促進支援事業の利用件数※ ²	43 件（H27）	110 件

※1 資料：市企画財政部地域戦略室調査

※2 資料：市都市整備部住宅政策課調査 基準値は平成 27 年 11 月時点

4 街並みを守り、都市基盤を整備する

本市は豊かな自然や田園風景、伝統的な街並み、整備されたニュータウンなど、地域によって多様な景観が見られます。保全・修景により地域特性を生かした快適な都市景観・農村景観を実現することで、まちのブランド化を図るとともに次世代へ継承していきます。

また、ＪＲ各駅周辺の都市基盤を整備・強化することにより、快適で利便性の高い合理的な土地利用を誘導するとともに、それらの良好な維持管理に努め、誰もが快適で安全安心な住みやすいまちを目指します。

そして、本市は高速道路や鉄道等、周辺地域を結ぶ広域的な交通の結節点であることから、人びとが交流する拠点整備を図ります。

(1) ふるさとの街並みを守る

- ・伝統的な町家の維持・再生により、歴史的街並みの保全とまちの賑わいづくりを図り、地域の活性化と観光客の誘致につなげます。
- ・地域特性を生かした景観計画を策定することで、景観の維持保全を図ります。また、啓発事業を実施することで本市の街並み景観の魅力を認識していただき、市民主体の景観まちづくりにつなげます。

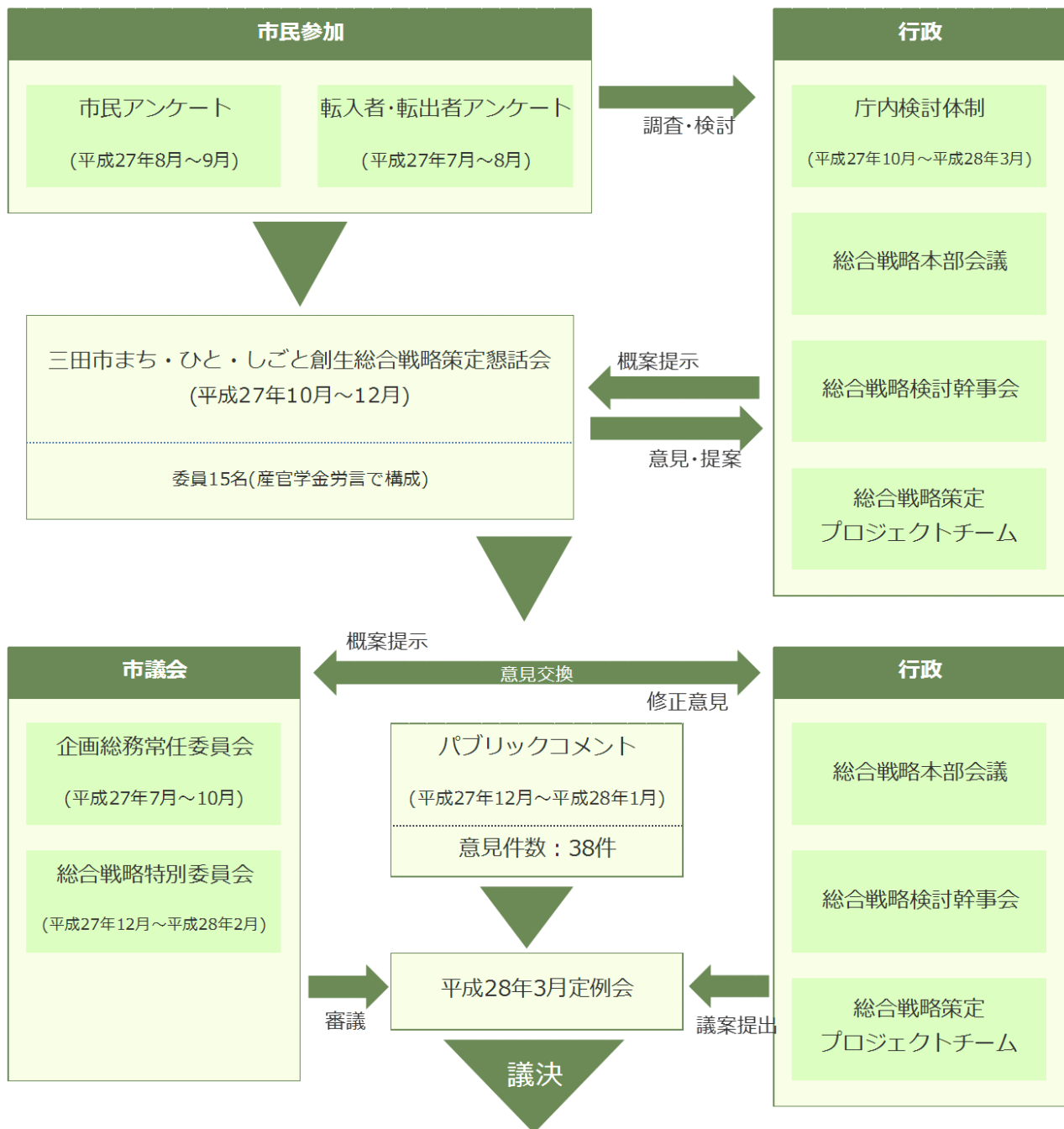
(2) 都市基盤の整備

- ・地域特性に合わせた土地利用を誘導することにより、まちの魅力向上、活力維持を図るため、三田駅前再開発やＪＲ各駅周辺の土地区画整理事業などを推進します。
- ・子育て世帯や高齢者に配慮した公共施設等の修繕を図るとともに、耐久性を向上させることにより、コストの縮減と安心で安らぎのあるまちづくりを進めます。
- ・地域の魅力を活かした集客性を高めるための拠点を整備し、賑わいのあるまちづくりを推進します。
- ・緑豊かで市民の憩い・安らぎの場としての市営墓地の魅力を高めるとともに、永続的かつバランスのとれた市営墓地の整備を図ります。

重要業績評価指標（ＫＰＩ）	基準値	目標値（H31）
市民の満足度平均点（景観）※	3.47/5 点（H26）	4.0/5 点

※資料：「平成 26 年度三田市市民意識調査～報告書～」平成 27 年 2 月 三田市

三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定過程



三田市企画財政部地域戦略室

〒669-1595 兵庫県三田市三輪 2-1-1

TEL(079)563-1111(代) FAX(079)563-1366

<http://www.city.sanda.lg.jp/>